

## 10月～11月前半の行事予定

### 西山地区

コミュニティ協議会だより

## 【(西風) 令和7年度10月号

発行：西山地区コミュニティ協議会

会長 中村 史傳

編集 中村美也子

令和7年10月 15日発行

瀬々野浦 1194 ☎ 5-0122

10/15 (水) 健康体操 13:30～

10/19 (日) 高齢者サロン

10/19 (日) 地域内清掃 8:00～

10/21 (火) 事務局会議 10:00～

10/25 (土) 長浜小・地区合同運動会

10/26 (日) 西山小学校草刈り 8:00～

11/8 (土) シアノーノ

11/9 (日) 甕マラソン

## 自治会・コミ協活動

### \* 西山敬老会

9/14 (日) 11時よりコミセン2階にて 西山敬老会を行いました。31名の方が参加され、食事に踊りにカラオケ等を楽しみました。瀬々野浦区消防団や西山郵便局や青瀬の西さんからお祝いや祝辞も頂き有意義な敬老会を開くことができ感謝するとともに参加者の方の今後のご健康を願う一日になりました。



清美さんの踊りに始まり新入生の丁さん・高康さんにもタオルが廻り皆さん笑顔で個性たっぷりの踊りを披露してくださいました。最後は武矩さんの万歳三唱で締めくくり無事終わりました。

楽しい時間をありがとうございました。来年もお元気な姿でお会いしましょう。

## \* 西山地区運動会

9/28（日）旧西山小体育館で運動会が行われました。来賓や帰省された方々と一緒に盛り上がりました。笑顔の絶えない運動会になりました。



ジャンケン大会で お米をゲットした5名の方々  
うらやましい～ 食べて大きくなってください！

## 笑顔特集

### 1 番の笑顔



### 2 番の笑顔



## それぞれの笑顔



楽しい時間でした 来年も  
元気で参加して下さい(#^.^#)



中村 史傳

シンヌウラ人間は、綱引きだけはどんなに年をとっても止めようとはしません。私はコロナ禍の後の復活する運動会の種目を決める時に「綱引きは年よりには無理だからもう止めようよ。腰痛のもとだよ。」と提案したのです。多分皆、賛成してくれると思ったのです。

ところが女性役員から反対されました。

その理由が「十五夜（ツーゴヤツナ）」を止めて物足りない。運動会まで綱引き止むれば、おもしろいもなか。」という意見でした。南九州一円では十五夜綱引きが伝統でカンネンカズラで縄を作るところが多く、飯島各地もそうです。かつて明治末頃はシンヌウラの十五夜綱は男女に分かれて引き、たいがい女が勝ったそうです。

負けて悔しい男が女に文句を言って家庭不和になったそうです。

その後大正時代になって上組・下組に分けて引くようになったとのこと



昭和20年10月10日のこと

昭和20年9月17日。枕崎に上陸した台風は、全国の死者2473名、行方不明者1283名、負傷者2452名という被害をもたらした。枕崎に上陸して四国・中国・近畿・北陸・東北を経て太平洋にぬけるというコースをたどっている。この台風は原爆投下後まもない広島で大きな災害をもたらしたという。瀬々野浦は、上陸地が枕崎であったせいか大きな台風とはなっていない。祖父の日記には天候の欄に「大雨暴風」としか記さず「仏教婦人会」「青年団結成」の記事が記されてある。大雨となったり強風は吹いたものの予定していた仏教婦人会や青年団結成のための集まりが開かれる程の天候ではあったのだ。この終戦直後の台風は「室戸台風」(1934年)「伊勢湾台風」(1959年)とならび「昭和の三大台風」と言われる。

本題の昭和20年10月10日の台風である。この台風は全国の死者377名、行方不明者74人、負傷者202名という。先の枕崎台風からすると死傷者、不明者は少ないが瀬々野浦の被害はこの台風のほうが甚大であった。死者が18名、流失家屋10棟(倉庫等は省く)という状態だった。古町川水系、江川水系の2つの川が氾濫をおこし家を押流し人を呑み込んだのである。いつもは細い流れにしか見えない両河川が氾濫をおこそうなどとは考えられない。この年の10月は秋の長雨が続けていたこともあったらしい。そしてこの台風はおそらく下甕島中央部に線状降水帯を作り出したのではないだろうか。だからこそ瀬々野浦ばかりではなく、青瀬や長浜でも死者が多く流失家屋をもたらしている。この台風は典型的な雨台風で阿久根に上陸してその後は枕崎台風に似た進路をたどって、九州から四国・中国・近畿・中部の中小河川を氾濫させて先に記した被害をもたらしている。瀬々野浦の話にもどす。10日の午前中はそれほど川の水量は増していなかったようだが、その後「車軸を流す大雨(ううあめさじく)」となる。江川水系では新八橋(公信君の家のあたり)に流木が堰を作り、流れが人家のほうに押し寄せる。古町川方面もヒューシ川やタカナン山からの流れがあふれて当時堤防もなく川面に近かった人家まで押しよせている。また現在の体育館裏手ののヒヤ山が土砂崩れをおこして人家を押しつぶした。こうして18名もの人命が失われたのである。死亡者、不明者についてはコミセン横(診療所裏)に建立された鎮魂の碑に刻まれている。

また、下甕村校区誌(P184~P186)に当時西山国民学校の先生だった山下淑子先生の回想記と同校生徒の宮野和さんがおそらく洪水の直後に書かれたであろう作文も載せられている。この日は雨が強く異状な降りであったものの、風はそれほど強くなく海もそれほど荒れようではなかった。一度海に流された者もいたが、浜に泳ぎついて助かった者もいたと聞いたがほんとうだろうか。その後土砂に埋まった人家と人の掘り出し・流された者の搜索・川の流木除去と戦後間もない頃とて集落で作業を進めるしかなかった。また物資もなく、わずかな被災見舞いしかなかったようだ。ちょうど稲も結実し実って刈り取らなければならない時期であったが、大雨のために稲刈りもできず、いくらかの田畑の流失もあったであろう。こうして翌昭和21年にかけてがシンヌウラでいう「きゅうねん年」となっていくのである。洪水後の死者の遺体は片野浦スス浜に流れ着いたもの、ムカシバトに寄ってウシゴウ墓に埋められたものもあったようだ。多くは海に流され遺体があがらなかった。この瀬々野浦に大きな被害と死者をもたらした雨台風は阿久根台風と名付けられている。瀬々野浦では昭和20年10月10日より83年前の文久2年8月10日(1862年)に洪水が起きてこの時も大きな流れがあり、多数の死者があったと聞く。この時上甲釣(カミコウツイ)にあったトンゴ一石が現在のところまで流されたというから、大規模な土石流だったと想像される。

中村 史傳

